

testo Saveris 2 / testo 160 表示メッセージ/エラーメッセージについて

testo Saveris 2 / testo160 V3.3 (2024.03)

表示メッセージ

画面上的表示	ロガーの状態	原因・解消方法
Conf (Conn)	ロガーがホットスポットモード中です。WiFiアクセスポイントとしてモバイル端末またはPCと接続可能です。ブラウザで [192.168.1.1] にアクセスし設定が可能です。	ロガーのボタンを3秒以上押すと、LEDが赤く点灯し、ホットスポットモードが終了します。
Err Account id (Err AccountID)	設定されたアカウントIDが無効または存在しません。	クラウドログイン後、[ダッシュボード→設定→アカウントID]で確認できるIDと設定したいアカウントIDが同一のものであることを確認してください。
not Active (not Active)	ロガーはアカウント上で無効な状態となっており、クラウドへデータを送信できません。	クラウドログイン後、[ダッシュボード→設定→無効データロガー]でロガーを有効化してください。ライセンスが不足している場合は追加でご購入ください。
no license (no license)	ユーザーはロガーに対してライセンスを持っていません。	ロガーを使用するためには、新しくライセンスを購入する必要があります。または現在有効なロガーを無効にする必要があります。
no probe (no probe)	温度プローブが接続されていません (T2のみ)	Saveris 2-T2設定時に、温度プローブが挿入されていない状態で設定することができません。実際に使用する温度プローブをすべて挿入した状態で設定してください。
no Account id (no AccountID)	アカウントIDがロガーに紐付けられていません。	ロガーとアカウントIDを紐付けさせるには、設定用PDFファイルを使用する場合、アカウントIDを正しく入力し、設定ファイル(.xml)を生成し、ロガーに転送してください。
RESET (RESET)	リセットされました	ロガーがクラウドから切り離されました。再度設定を行ってください。
Conf Valid (Conf Valid)	有効な設定ファイル["WifiConf_Daten.xml"]が読み込まれました。	設定ファイルが正しく読み込まれたので設定ファイルに問題はございません。
Conf Saved (Conf Saved)	設定ファイル["WifiConf_Daten.xml"]が保存されました。	設定ファイルが正しく読み込まれた後、ロガー内に設定情報が保存されました。

エラーコード

エラーコード	説明	原因・解消方法
E-12	設定ファイルが正しくありません。	設定ファイル["WifiConf_Daten.xml"]が誤って編集されている、またはSSIDに無効な文字が含まれています。 →再度設定ファイルをロガーのストレージにコピー&ペーストしてください。
E-20	WPA2エンタープライズ(EAP)の接続においてCA(ルート)証明書証明書が見つかりません。	CA(ルート)証明書を"ca.pem"という名称で保存し、xml設定ファイルと一緒にロガーのストレージにコピー&ペーストしてください。
E-21	CA(ルート)証明書証明書[ca.pem]の形式が正しくありません。	CA(ルート)証明書証明書がPEMまたはBASE64形式でエンコードされているか確認してください。確認するためには、証明書ファイルをテキストエディタで開き文字列の最初が["-----BEGIN CERTIFICATE-----"]となっていることを確認してください。この文字列が確認できなかった場合には、ユーザーまたはシステム担当者がRadiusサーバーから抽出された証明書をBASE64でエンコードするか、Opensslで変換してください。ロガーに読み込まれるCA(ルート)証明書は1つのみです。
E-22	WPA2エンタープライズ/EAP-TLSでの接続設定が必要です。クライアント証明書が見つかりません。	クライアント証明書をPEM形式["client.pem"]という名称で保存し、設定ファイル(.xml)と一緒にロガーのストレージにコピー&ペーストしてください。
E-23	クライアント証明書["client.pem"]が正しくありません。	クライアント証明書がPEMまたはBASE64形式でエンコードされているか確認してください。確認するためには、証明書ファイルをテキストエディタで開き文字列の最初が["-----BEGIN CERTIFICATE-----"]となっていることを確認してください。この文字列が確認できなかった場合には、ユーザーまたはシステム担当者がRadiusサーバーから抽出された証明書をBASE64でエンコードするか、Opensslで変換してください。ロガーに読み込まれるクライアント証明書は1つのみです。
E-23	旧モデルのSaveris2 (2016年以前に発売、型番 0572 200X、シリアルナンバーが45から始まるモデル)のみ: 内蔵のWiFi通信モジュールの初期化ができませんでした。	このエラーはバッテリー残量が殆どないときに発生する可能性があります。 →電池を交換してください。電池交換後同じ症状が続くようであれば、工場出荷状態へのリセットを実行してください。それでも症状が改善しない場合はロガーに不具合がある可能性があるためお手数ですがテストのサービスセンターへご連絡ください。
E-24	WPA2エンタープライズ(EAP-TLS)での接続設定が必要です。クライアント証明書が見つかりません。	クライアント証明書がPEM形式["private.key"]という名称で保存し、設定ファイル(.xml)と一緒にロガーのストレージにコピー&ペーストしてください。
E-25	クライアント証明書["private.key"]が正しくありません。	クライアント証明書がPEMまたはBASE64形式でエンコードされているか確認してください。確認するためには、証明書ファイルをテキストエディタで開き文字列の最初が["-----BEGIN CERTIFICATE-----"]となっていることを確認してください。この文字列が確認できなかった場合には、ユーザーまたはシステム担当者がRadiusサーバーから抽出された証明書をBASE64でエンコードするか、Opensslで変換してください。ロガーに読み込まれるクライアント証明書は1つのみです。
E-26	ロガーが無線アクセスポイントに接続できませんでした。	①無線アクセスポイント(WiFiルータ)の電波(2.4GHz)が届いていない、またはアクセスポイントの電源が切れている。 →必要であればアクセスポイントに電源が入っているか確認し、電波の届く範囲内にロガーを設置して再度接続試行してください。 ②設定したSSIDが正しくない。 →アクセスポイントのSSIDが正しいことを確認してください。Testoのクラウドロガーは2.4GHzにのみ接続可能であるため、5GHzのSSIDで設定すると接続できません。正しいSSIDを確認の上再度設定してください。 ③アクセスポイントが次の暗号化方式を使用していない。WEP, WPA (TKIP), WPA2 (AES, CCMP) →アクセスポイントの暗号化設定を上記のいずれかに変更してください。 ④接続するアクセスポイントDHCPサーバー機能で割り当て可能なIPアドレスがない。 →アクセスポイントに接続するデバイスを切断し接続数を減らすか、アクセスポイント側の設定でDHCPのIP割り当て数を増やしてください。 ⑤DNS名前解決に失敗している →E-36を参照してください。 △他のWiFiアクセスポイント(例: スマートフォンのデザリングなど)でクラウドに接続できるかお試しください。接続ができた場合、ハードウェアには異常はなく、実際に接続するWiFiアクセスポイントのセキュリティ設定が原因で接続できない可能性がございます。この場合情報システムご担当者様にお問い合わせください。接続できなかった場合、ハードウェアの異常の可能性がございますので、サービスセンターにご連絡をお願いします。
E-32	"旧モデルのSaveris2 (2016年以前に発売、型番 0572 200X、シリアルナンバーが45から始まるモデル)のみ: ロガーがDHCPサーバーからIPアドレスを取得できませんでした。	①アクセスポイントのパスワードが正しくない →正しいパスワードを確認後再度設定してください。 ②アクセスポイント(WiFiルータ)がMACアドレス制限をかけている、または新規デバイスの接続を許可していない。 →アクセスポイントの設定を変更してください。 ③多くのデバイスがアクセスポイントに接続しており、DHCPが割り当てできるIPアドレスがない。 →アクセスポイントに接続するデバイスを切断し接続数を減らすか、アクセスポイント側の設定でDHCPのIP割り当て数を増やしてください。
E-35	データロガーがアクセスポイントに送信したpingの返答を受信していません。	アクセスポイントの設定で、ロガーからアクセスポイントへのpingの送信を許可してください。
E-36	DNS名前解決ができませんでした。	①アクセスポイントがインターネットに接続していません。 →アクセスポイントおよびゲートウェイの状態を確認してください。 ②LAN側でのルーティングが正常に稼働していません。 →アクセスポイントに接続している端末デバイスが多すぎないか確認してください。 また、設定用PDFを開いて[expert mode]でDNSサーバーのIPアドレスを指定またはパブリックDNSサービスで提供されているIPアドレス等を試してください。 ③設定用PDFを開いて[expert mode]で静的IPアドレスの設定を行った際、DNSサーバーの情報が入力漏れがある。 →DNSサーバーの情報は必須項目です。情報を入力の上再度設定してください。 ④アクセスポイントおよびゲートウェイがインターネットに接続していない。 →アクセスポイントおよびゲートウェイの状態を確認してください。
E-41	ロガーがNTPサーバー["pool.ntp.org"]から時間情報を受け取ることができませんでした。	①NTPポート (123/UDP)が開放されていない。 →NTPポート (123/UDP)を開放してください。 ②ロガーが未だTestoクラウドとの接続を確立していない場合: アクセスポイントおよびゲートウェイでTCPポート(1883または8883)が開放されていない。 →TCPポート(1883または8883)を開放してください。
E-51	ロガーがクラウドとの接続に失敗しました。	②プロキシを使用している場合: testo Saveris 2 / testo 160はプロキシには対応していません。 他のアカウントとロガーがすでに紐付いている。 →他のアカウントにログインし、[ダッシュボード→設定→無効データロガー]で対象のロガーの紐付けを解除してください。
E-52	ロガーがクラウドとの接続に失敗しました。	①データ送信中にインターネット接続が切断された。 →ロガーとアクセスポイントとの接続が安定していること、アクセスポイントおよびゲートウェイがインターネットに安定して接続していることを確認してください。一度送信に失敗したデータは次回送信時に再度送信されます。または、ロガーのボタンを押すと強制的にデータ記録・データ送信するため、送信に失敗したデータも手動で再送信します。
E-63	ロガーがクラウドへのデータ送信に失敗しました。	②Testoクラウドサーバーが受信されたデータを処理していません。 →サーバーは常時監視されているため、異常が検知されたらメンテナンス後すぐに復旧します。 インターネット接続が切断された、またはロガーがファームウェアデータを受信していない。 →ロガーとアクセスポイントとの接続が安定していること、アクセスポイントおよびゲートウェイがインターネットに安定して接続していることを確認してください。または、ロガーのボタンを押すと強制的にクラウドと通信するため、受信に失敗したデータも再受信可能です。
E-75	ファームウェアアップデートが失敗しました。	→ロガーとアクセスポイントとの接続が安定していること、アクセスポイントおよびゲートウェイがインターネットに安定して接続していることを確認してください。または、ロガーのボタンを押すと強制的にクラウドと通信するため、受信に失敗したデータも再受信可能です。